

NACOME

全国大学音楽教育学会 関西地区学会
令和元年度 臨時総会、及び後期研究会

令和2年1月12日(日) 13:00~16:50

三木楽器開成館

大阪市中央区北久宝寺町 3-3-4

主催 全国大学音楽教育学会 関西地区学会

全国大学音楽教育学会 関西地区学会

令和元年度 臨時総会、及び後期研究会

プログラム

I. 学会諸連絡 (13:00~13:15)

1. 学会諸連絡

- ① 「関西地区学会誌」創刊の件
- ② 2020年度全国大会《奈良大会》開催の件（会員の皆様への協力依頼）
- ③ 電子メールでの連絡の件

II. 臨時総会 (13:15~13:30)

- 1. 全国大学音楽教育学会 第36回全国大会《奈良大会》予算案
- 2. その他

* * * * *

III. 研究演奏発表 (13:30~14:20)

1. ピアノ独奏 小谷 朋子 (常磐会短期大学)

ドビュッシー 作曲：「子どもの領分」より
第3曲『人形へのセレナード』 第4曲『雪は踊っている』

2. ピアノ独奏 山岸 多恵 (兵庫教育大学)

草野次郎 作曲：「幻想風トッカータ」

3. ピアノ独奏 橋爪 加奈子 (常磐会短期大学)

橋爪 皓佐 作曲：'3Cs' 'Sonata' より "L.1" "L.9"

* * * * *

4. 独 唱 篠原 美幸 (大阪教育大学) ピアノ 丸井 理恵 (常磐会学園大学)

巖谷 小波 作詞/文部省唱歌：「ふじの山」
吉丸 一昌 作詞/中田 章 作曲：「早春賦」
佐佐木 信綱 作詞/小山 作之助 作曲/源田 俊一郎 編曲：「夏は来ぬ」
斎藤 信夫 作詞/海沼 実 作曲/若林 千春 編曲：「里の秋」

* * * * *

5. 作品発表 山岸 徹 (大阪キリスト教短期大学)
独 唱 藤田 浩恵 (兵庫大学短期大学部)
ピアノ 幸野 紀子 (甲南女子大学)
瑞木 よう 作詩/山岸 徹 作曲:「桜の空」

* * * * *

6. ピアノ連弾 津田 安紀子 (兵庫大学)
前北 恵美 (兵庫大学)
フォーレ 作曲:組曲「ドリー」より
第2曲『ミ・ア・ウー』 第3曲『ドリーの庭』 第6曲『スペインの舞曲』

7. ピアノ連弾 鷺見 三千代 (園田学園女子大学短期大学部)
中村 愛 (園田学園女子大学短期大学部)
ラフマニノフ 作曲:「ピアノ協奏曲 第2番」より 第1楽章

* * * * *

休 憩

IV. 関西地区学会会員によるラウンドテーブル (14:30~15:20)

「幼児教育の現場から養成校に望むこと」

話題提供者:中尾 かつ江

* * * * *

休 憩

V. 講演 (15:30~16:50)

講師:三村 真弓 氏 (広島大学教授)

演題:子どもと音楽

ー幼児の主体性を重視するのか、音楽活動の質の向上をめざすのかー

質疑応答

関西西地区学会会員によるラウンドテーブル

テーマ：「幼児教育の現場から養成校に望むこと」

話題提供者：中尾 かつ江 先生

幼稚園の現状と学生の幼稚園教諭離れの現実、養成校の音楽教育のあり方と幼稚園現場でのこどもたちへの音楽教育のあり方を現場からの報告と共に問題提起します。

【中尾 かつ江 先生：略歴】

本学会会員。養成校勤務を経て2017年より大阪青山大学附属青山幼稚園園長となる。

* * * * *

講演要旨

演題：子どもと音楽

－幼児の主体性を重視するのか、音楽活動の質の向上をめざすのか－

乳幼児期の子どもと音楽の関連に関して、大きく2つの課題を提示します。第1は、音楽活動の質の向上をめざすことを優先すべきなのか、それとも子どもの主体性や自己表現を重視すべきなのかという課題です。第2は、幼児教育における音楽活動は教師が指導する集団活動が中心となっていますが、子ども一人ひとりが生活の中にある音や音楽にどのような関心をもつのか、どのような気付きがあるのか、どのように創造的な活動をするのかという課題です。いくつかの事例をもとに、課題を解決できる条件を提案したいと思います。

【三村 真弓 先生：プロフィール】

広島大学教授。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士（教育学）取得。主たる研究領域は、幼児音楽教育、音楽教育史、音楽科授業研究、音楽カリキュラム研究、等。

研究演奏発表要旨

1. ピアノ独奏 ドビュッシー 作曲：「子どもの領分」 より 第3曲『人形へのセレナード』 第4曲『雪は踊っている』

小谷 朋子（常磐会短期大学）

「子どもの領分」（原語Children's corner）の領分について、どのように捉えればよいのであろうか。辞書を用いると、corner（英）には角、面、偏辺、周辺、側辺等の意味が記されているが、いずれも自然ではない。

ドビュッシーは、この作品を幼い愛娘シュシュのために作曲した。大切な人形と一緒に眠りに入る子ども（第3曲）や、窓から見える雪の降る様子に心奪われ、窓際に駆け寄り外を眺める子ども（第4曲）の情景が窺える。同時に、そのわが子の姿を少し離れたところから見守っているドビュッシーその人の存在感も感じられる。充実感や幸福感で満ち溢れているシュシュの世界の傍らには、その子どもの豊かな世界観を認めているドビュッシーの存在があり、共に楽しみの活動を共有しているのである。

つまり領分とは、信頼関係のある他者との交流のもとで認められた領域と言えるのではないだろうか。さらには、領分について考えをめぐらせることは、‘人間の実存’に関して捉える重要な視点の一つであると考ええる。

2. ピアノ独奏 草野次郎 作曲：「幻想風トッカータ」

山岸 多恵（兵庫教育大学）

《幻想風トッカータ》は序奏付きの3部構成である。ゆったりとした響きの序奏から始まり、主部（モルト・アレグロ）に入り、中低域から流動的な第一主題が提示される。その後、ファンファーレのようなブリッジを経て再び主部が出現し1部が終了する。第2主題はアンダンテに変わり浮遊するような旋律が流れる。中間部は多調性で構成されたコラール主題を軸として変奏を重ね、頂点に達したところで再現部に接続する。コーダではピアノスティックなスピード感のあるクライマックスを構築し、決然と締めくくる。幻想風なコラールの楽想と器乐的な即興的パッセージを合体させた曲と感じられる。

筆者が非常勤で出講している高校で担当する「器楽と歌曲」「鑑賞」「こども音楽」等の授業でも役立てたいと考え、研究演奏発表のテーマに取り上げた。最後にこの度の研究演奏発表において改訂版を作成して下さいました草野次郎先生（兵庫教育大学教授）に、心から感謝の意を表したい。

3. ピアノ独奏 橋爪 皓佐 作曲：‘3Cs’

‘Sonata’ より “L.1” “L.9”

橋爪 加奈子（常磐会短期大学）

現在、世界中に様々なピアノ作品が存在し、日々新たな可能性が模索されている。今回、現代音楽の作品を通して、ピアノの更なる魅力を探求していきたい。

‘3Cs’（2012年）は、隣り合った音（2度、7度、9度）、または同じ音を基調とする非常に短い作品で、1.“Calling”、2.“Colours”、3.“Changes”の3楽章から成る。1、3楽章は隣り合った音が持つ響きや重なりが味わえ、シンプルながらも構造は緻密である。2楽章はCの音のみで作曲され、強弱、音価、高低、臨時記号によって、色彩豊かなCの世界が表現される。

‘Sonata’（2014年）は、左手ピアノのために書かれた全9楽章の作品で、左手の素早く正確な移動と、低音から高音まで様々な音色を表現するテクニック等が求められる。片手ピアノは、各指の役割や全身の使い方、各音域のバランスや響かせ方、ペダリング等、幅広く研究する必要があるため、非常に興味深い分野である。

4. 独 唱 巖谷 小波 作詞／文部省唱歌：「ふじの山」

吉丸 一昌 作詞／中田 章 作曲：「早春賦」

佐佐木 信綱 作詞／小山 作之助 作曲／源田 俊一郎 編曲：「夏は来ぬ」

斎藤 信夫 作詞／海沼 実 作曲／若林 千春 編曲：「里の秋」

ソプラノ 篠原 美幸（大阪教育大学）

ピ ア ノ 丸井 理恵（常磐会学園大学）

教職を取るために声楽を履修している学生で、今回選曲した「ふじの山」「早春賦」のような小学校・中学校共通教材や、「夏は来ぬ」「里の秋」のような童謡・唱歌を音楽の授業で歌った経験の少ない学生が増えてきたように思われる。

「早春賦」の1番「春は名のみ」を「はる はなのみ」と歌う者が年々増えており、既習かどうか問うと履修生ほとんどが未習であったこともある。

今日選曲した曲などを児童・生徒たちが内容を深く理解して歌唱することで、それぞれの時代の日本の人々の暮らしや風習、文化、素晴らしい四季折々の自然の姿などを後世に伝えることにつながり非常に重要であると考え、研究演奏とする。

今回の演奏に際し、ピアノ伴奏は「ふじの山」「早春賦」については教科書用指導書などに掲載され使用されているもの、「夏は来ぬ」「里の秋」はより演奏効果が高いと思われるものを使用した。

研究演奏発表要旨

5. 作品発表 瑞木 よう 作詩／山岸 徹 作曲：「桜の空」

作曲 山岸 徹 (大阪キリスト教短期大学)

独唱 藤田 浩恵 (兵庫大学短期大学部)

ピアノ 幸野 紀子 (甲南女子大学)

詩人・作曲家・演奏家によるコラボレーションの場である「ひょうご日本歌曲の会」での活動を通じて出会った瑞木よう氏の詩に基づき作曲した。瑞木氏は桜をテーマとした詩を数多く発表されている。桜のイメージは日本の「原風景」に通じるとの思いが作曲の発想の根底にある。

独唱とピアノのそれぞれに、桜をイメージした描写的なフレーズが繰り返される。それらの移り変わりの中で、色彩の濃淡や遠近感のある風景を描こうと考えた。

詩と音楽の繋がりを考え、自分自身が実際の音楽創造に関わることが平素の教育活動における原動力となっていると考えている。

本日、本学会会員のお二人の先生に自作品を演奏していただけることを感謝している。

6. ピアノ連弾 フォーレ 作曲：組曲「ドリー」より

第2曲『ミ・ア・ウー』

第3曲『ドリーの庭』

第6曲『スペインの舞曲』

プリモ：津田 安紀子 (兵庫大学)

セコンド：前北 恵美 (兵庫大学)

組曲「ドリー」は、G.フォーレ (1845～1924) によって 1893 年～1897 年の間に作曲されたピアノ連弾のための唯一の作品であり、全 6 曲からなる組曲である。「ドリー」とは、作曲当時にフォーレが親しくしていたバルダック家の幼い娘“エレーヌ”の愛称であり、彼女の誕生日を祝って一年ごとに作曲されたと伝えられている。このように子供のために書かれたピアノ曲は他にも、C.ドビュッシー (1862～1918) による「子どもの領分」がよく知られているが、フォーレとドビュッシーは共にエレーヌの母親との交流があったために、この二つの作品は並べて評価されることも多くみられる。

フォーレ特有のハーモニーの美しさ、子供への愛情から垣間見られる温かさや優しさ、また、ピアノ連弾ならではの表現の可能性、あるいはアンサンブル演奏における音楽創りの在り方を追求しながら演奏したいと考える。

7. ピアノ連弾 ラフマニノフ 作曲：「ピアノ協奏曲 第2番」より 第1楽章

鷺見 三千代（園田学園女子大学短期大学部）

中村 愛（園田学園女子大学短期大学部）

ラフマニノフ（1873～1943）はロシアを代表する作曲家でチャイコフスキーをはじめとする 19 世紀ロシア・ロマン派の音楽を受け継いだ音楽家である。1900～1901 年に書かれたこの曲は、当時数年間にわたって作曲に苦しんでいた彼を解放してくれた曲と言われている。

ロシア正教の鐘をイメージした音から始まり、アルペッジョの伴奏型によってロシア的な重厚な旋律が歌い出す。その後一度静けさを取り戻し、次に甘くうっとりする旋律が続き、調性・音色を変えながら壮大なクライマックスを迎え、盛り上がりの中で歯切れよく終わる。

ハ短調のこの曲は、その旋律の美しさからクラシック音楽の中でも最もポピュラーな作品の一つであり、映画「逢びき」「旅愁」「七年目の恋」などで使用されたことでも知られている。また、この曲の冒頭の音楽が「のだめカンタービレ」で取り上げられたことから、若い世代にも馴染みのある音楽である。

* * * * *

●お知らせ

- ・全国大学音楽教育学会 第 36 回全国大会《奈良大会》
2020 年 8 月 27 日（木）～29 日（土） 奈良春日野国際フォーラム 薨
- ・諸連絡の電子メール活用について（お願い）：
過日お知らせしましたとおり、今後順次、可能な範囲で電子メールを利用してゆきます。
ご理解、ご協力をお願いいたします。
- ・全国大学音楽教育学会 関西地区学会誌 創刊号 vol.1 2019 について：
残部が若干数ございます。実費（¥600）にて販売いたします。